

## みらいふる鎌倉 会員広報紙

やまもと



本覚寺山門  
撮影・伊藤昌平

発行  
鎌倉市老人クラブ連合会  
発行人 大久保安夫  
編集人 都筑健一  
門田京藏  
山本照子

〒248-8686  
鎌倉市御成町18-10  
鎌倉市老人クラブ連合会  
(愛称・みらいふる鎌倉)  
☎(0467)61-3930

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212

## 第59号

今回の「かまくらびとに聞く」には、二〇〇七年日  
本芸術院賞を受賞された大  
津英敏氏に登場いた  
だい。大津氏は「家族の絆」  
をテーマに次々と大作を発

表し話題を呼んでいる現代  
洋画家である。氏の絵から  
は優しさと温もり、ひいて  
は日本人の心や文化が伝わ  
つてくる。長女香織さんを  
はじめとする「家族」を描



# かまくらびとに聞く

洋画家・多摩美術大学教授 造形表現学部長

## 大津 英敏 氏

取材当日は第七  
十五回独立展(十  
月開催)に出展  
する作品の制作中  
であったにもかか  
ることが氏のライ  
フワークなのであ  
る。

た香織さんをモデルにした  
二〇〇号の大作(タイトル  
『CITÉ』)の前の大津氏で  
ある。

(九月二十七日)

対談者 門田

変わらなくちゃ老人クラブ、何  
年から言ってきたフレーズ  
ですが、鎌倉市老人クラブ連合会  
では、今年二〇〇七年を変革の年  
と定め、従来の老人クラブのイ  
メージの刷新を図るため、新しい

上記の新しいシンボルマークに  
も、①手のひらに光が降り注ぐイ  
メージ②老人クラブのみなさん  
の手の中に明るい未来の光が降り  
注ぐという意味を持たせました。



愛称選考委員会のもよう

愛称選考委員会 株式会社鎌倉ケーブルコミュニケーションズ代表取締  
役社長・末澤廣治/鎌倉美術連盟会長・藤沼誠一/有限会社ハミングバー  
ド代表取締役・浜田淑子/財團法人鎌倉市芸術文化振興財團理事長・鎌  
倉文学館長・山内静夫/鎌倉市老人クラブ連合会会长・大久保安  
夫/株式会社博報社編集部次長・佐井カオリ/(敬称略・順不同)



みらいふる鎌倉  
MIRAIFUL KAMAKURA

▲平成19年11月から「みらいふる鎌倉」に

いきいきと活動し、  
明るい未来の光が降り注ぐ老人クラブへ

愛称を募集するに至りました。

八月十日から九月十二日と短

期間ではありましたが、全国か

ら二五一通の応募が寄せられまし

た。番組企画部会を中心に、一次

選考、二次選考を行い二十通まで

しぶり、各方面の著名人に選考を

お願いして行われた三次選考を経

て、新愛称「みらいふる鎌倉」に

決まりました。

### やまもと59号 主なもくじ

- 2面 大津英敏氏インタビュー
- 3面 鎌倉元気のススメ
- 4面 鎌倉ゆかりの人・田中絹代
- 5面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 9面 鎌倉今昔・お十夜のいわれと今昔
- 10面 鎌倉の昔の小学校の思い出
- 12面 鎌倉散歩、やまももさん

鎌倉市的人口 176,193人 高齢化率(65歳以上) 全市 25.5% (地区別) 鎌倉地区 7.8%、腰越地区 4.4%、深沢地区 4.9%、大船地区 5.5%、玉縄地区 2.9% 平成19年9月末日現在 ※市全人口に対する割合  
鎌倉市老連会員数 4,001人 (地区別) 鎌倉地区 1,416人 (35.3%)、腰越地区 465人 (11.6%)、深沢地区 706人 (17.7%)、大船地区 827人 (20.7%)、玉縄地区 587人 (14.7%) 平成19年9月末現在  
★鎌倉市老連ホームページアドレス <http://www.kamakura-rouren.jp/> ★メールアドレス [info@kamakura-rouren.jp](mailto:info@kamakura-rouren.jp) ◎数字は住民基本台帳をもとにしています

福岡県大牟田市で少年時代をすごしたのち東京芸術大学油絵科（山口薰先生に師事）を卒業した大津氏は、独立展に出品を重ねるなど、意欲的な創作活動を続ける。一九七〇年、二度目の独立展で初めて『マリシリーズ』を発表した。寝姿をした人物の上方に、蹴り上げたような顔の大きさぐらいの球状が描かれている。

——先生」とつてマリとはなんだったのですか？

大津「マリはなにかを象徴するものではなく、少年時代を懐かしむ、郷愁を感じさせる」と同時に、絵画の技術上、構図が非常に引き締まりやすいという画面を含んでいるのです。」

マリシリーズは、少年時代にみたサーカスの人たちの姿と、東京の街を組み合わせて現代風に表現された、いわば幻想的な作品群である。

一九七九年から家族とともにフランスへ渡った大津氏は、パリで過ごした一年半で、「家族の絆」を考えるように。画家というものは、長い間同じ題材で描いているとテーマにあきてマンネリ化する。帰国後、何を書こうかと考えた時、パリと一緒に生活した家族、そしてその代表で子どもをモデルに描くことが浮かんだ。一九八二年『少女・毬歌』（画面中央に月のような球が浮いている）を発表、これがマリシリーズとの決別の一枚となり、いわば、制作の歩みの分水嶺、『少女シリ



たので淨明寺へそして今は海岸に近い笹目の住人となつてゐる。

大津「鎌倉は敷居が高いと思つていましたが、実に住みやすい。禪宗で育つた街だからなのか、意外と地味な生活をしていて、あまり見栄つ張りな生活はしていませんね。私自身、このシンプルライフが好きで、もちろん子どもたちも気に入っています。」

大津氏が生まれた炭鉱の町とは都市の歴史の違いはあるものの、互いに有明海、相模

——今後はどのような方向へ行かれるのですか?

大津「そうですね、これからは鎌倉の風景を少しずつ定期的に、テーマを決めて、人が気がつかないような鎌倉を描いていきたいなと思つていてます。一ヶ月に一枚は書くぞ、と決意を立ててね。これを十年、二十年やると、鎌倉の風景の画集がだせるかもしね。」

二つの新聞

日本芸術院  
—受賞作—  
平成19年12月19日

貢受賞記念 大津英敏展  
初陽巴里と日本の風景画—  
木下 12月25日(火)  
銀座松屋百貨店にて開催

「先生はどこで『』とはなんだったのですか？」  
大津「マリはなにかを象徴するものではなく、少年時代を懐かしむ、郷愁を感じさせると同時に、絵画の技術上、構図が非常に引き締まりやすいという画面を含んでいるのです。」  
マリシリーズは、少年時代にみたサークスの人たちの姿と、東京の街を組み合わせて現代風に表現された、いわば幻想的な作品群である。  
一九七九年から家族とともにフランスへ渡った大津氏

福岡県大牟田市で少年時代をすごしたのち東京芸術大学油絵科（山口薰先生に師事）を卒業した大津氏は、独立展に出品を重ねるなど、意欲的な創作活動を続ける。一九七〇年、二度目の独立展で初めて「マリシリーズ」を発表した。寝姿をした人物の上方に、蹴り上げたような顔の大きなぐらういの球状が描かれている。

ーズ」本格スタートとなる作品となつた。その後、発表された『KAORI』で第二十六回安井賞（一九八三年）を受賞する。

大津「安井賞展に推薦された時、銀座で個展を開いていたので、一度は辞退しましたが、個展に穴が空いてしまいますからね。しかし、一日で返却してくれるので一点だけ出展したのです。事務局から電話がかかってきて、『大津さんの作品が安井賞に決まりました』ってね。驚きました。帰国してからテーマが変わったことと、子どもをモチーフに描くことが当時めずらしかった」とから、審査員の受けもよかつたのでしょうかね。

当時を振り返りユニークな裏話を語る大津氏の瞳は、少年のような輝きをはなつ。

単に自分が興味を持つていいの  
から描くことも大事ですが、  
それと同時に画家というものが  
が社会においてどういう役割  
なのか、存在の意味があるの  
かを考えます。」

画家とは、その時代時代の  
背景を切り取り後世に伝える  
存在でなければならぬので  
はないか、と自覚していると  
ころだという。人間文化の歴  
史を彩ること、人間の歴史を  
描き残すことだ。約三十年の  
間描き続けた娘たちの絵、そ  
してこれから後、子どもが結  
婚し孫ができるも、終生のテ  
ーマとしてひとつの大きな  
『家族』を描き続ける。

鎌倉へは結婚を機に移り、  
住み始めてから三十七年にな  
る。芸大の先輩からアトリエ  
付の空き家（大町）を三年間  
という期限付きだが借りるこ

**大津 英敏 氏  
プロフィール**

おおつえいびん 1943年生まれ、福岡県大牟田市出身。東京芸術大学卒業。鎌倉市在住。1979年家族とともに渡欧、1981年に帰国。安井賞、宮本三郎賞、損保ジャパン東郷青児美術館賞、日本芸術院賞などに選ばれています。

ど受賞多数。毎年国内で個展を開催。主な著書に「大津英敏画集」('86 求龍堂)、「大津英敏画文集—家族へのまなざし」('98 日本経済新聞出版社)、「大津英敏展—伝えたい気持ち」('05 損保ジャパン)。現在、独立美術協会会員、多摩美術大学教授・造形表現学部長。

大津 英敏 氏  
プロフィール

おおついいびん 1943年生まれ、福岡県大牟田市出身。東京芸術大学卒業。鎌倉市在住。1979年家族とともに渡欧、1981年に帰国。安井賞、宮本三郎賞、損保ジャパン東郷青児美術館大賞、日本芸術院賞など受賞多数。毎年国内で個展を開催。主な著書に「大津英敏画集」('86 求龍堂)、「大津英敏画文集—家族へのまなざし」('98 日本経済新聞出版社)、「大津英敏展—伝えたい気持ち」('05 損保ジャパン)。現在、独立美術協会会員、多摩美術大学教授・造形表現学部長。

地区、名越方面からも三々  
朝比奈峠の近くから、さら  
に海岸方面では由比ヶ浜  
呂坂中頃、北辺は十二所、  
都筑 健一

## 雪ノ下寿会



三月初めから十一月中旬  
まで、日曜日と雨  
天は自然休日とな  
り、夏期には地域

## ラジオ体操といらりしゃ



元気なクラブを  
紹介します

五々集まり始めます。  
六時三十分、ラジオ体操  
第一、第二と進んだあとは  
鶴岡八幡宮源平の池を望  
む広場では、毎日早朝六時  
十分ごろからは源氏の池を  
眺める藤棚のあたりで遠近  
の方々も「やアおはようございます」から始まり、気  
候の話、行事の話、地域の  
ニュースの話、さまざま  
な話題の交換をし、ひとしき  
り話が弾みます。西は巨福  
呂坂中頃、北辺は十二所、  
朝比奈峠の近くから、さら  
に海岸方面では由比ヶ浜

十一月を迎えております。  
所在は江の電極楽寺駅か  
ら近く馬場ヶ谷戸と西ヶ谷  
戸二つの自治町内に属し、  
会員は現在ここに居住する  
人たち四十一名（対比男一  
対女三）で活動しています。

## 極楽寺若葉会

## 月影地蔵堂周辺の清掃活動

内田 一男

年齢層は九十八歳から六十  
二歳、平均年齢七十七歳と  
高齢化の範囲に入っています。

このような環境のなか現  
在会が存続できたのは、地  
域の人との深いふれあいが  
あったからだと思っています。  
昔からの仕事や行事を、



地元の人と会の先輩の方が  
受け継いできた貴重な贈り  
物と思考し、現在も会の運  
営に反映させております。  
その一つに「老人でもや  
ればできるのだ」と今から  
十五年以前に当時の会長の  
発案で、社会奉仕活動とし  
て地元の月影地蔵境内と周



毎回作業終了後は綺麗になつた境内を眺め、堂内で  
お茶を頂きながら反省会、  
その会話のなかで「このお  
地蔵様が地域と私たちを何  
時もお守りしてくださるの  
だから、お掃除などしてお  
返しをするのが当然」会が  
た。

分身体を動かして健康増進  
に励んで下さるようお勧め  
したいと思います。

の小学生が参加、保護者な  
どが付き添い、一段とにぎ  
やかになります。かつて日  
刊紙の取材を受け、この度  
はケーブルテレビからも取  
材されて画面に登場し、タ  
ウンニュースの紙面も飾り  
ました。鎌倉の鶴岡八幡宮  
という環境に恵まれて、自  
然の緑多き神域で過ごすこ  
とができるのは幸せと思いま  
す。どなたでもご随意に、  
明日からでも結構、思う存

存続するかぎりこれから先  
も続けたいと会員皆さん  
心強い言葉があり感謝して、  
これからも頑張っていきた  
いと思う昨今です。





## みらいふる鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報のコーナー

## 平成十九年度 功労者のつどい開催



**大久保安夫氏**（鎌倉市老連会長）  
**神奈川県知事表彰を受賞**

この度、鎌倉市老連  
会長・大久保安夫氏が、  
十一月十四日神奈川県  
老連功労者の集いにお  
いて、平成十九年度神奈川県知事表彰  
(老人クラブ活動に対する貢献)を受  
賞されました。おめでとうございます。

表して岩瀬  
武井栄子氏  
が謝辞を述  
べました。

次に大久  
保会長より  
各地区長に  
“みらいふる  
鎌倉”的旗

十一月六日から十一日の七日間、JR鎌倉駅地下道「ギャラリー50」で、作品展が開催されました。

みらいふる鎌倉作品展

今年は大船第一・大船第二・玉縄地区  
から31点の力作が出展されました！



回親善交流大会が開催されました。人数が揃つかと双方ともに気をもんでいましたが、合計一一二名の選手は九時半には見事全員揃いました。十時の開会には石渡市長も駆けつけられ、市の小川部長が始球の球を打ちま

悪天候が予想され決行が危惧されましたが、天の恵み、われわれの願いが通じて素晴らしい秋晴れのもと、笛田運動公園で横浜市栄区二アクラブ連合会との第一回親善交流大会が開催されました。

十月十五日、第八回横三  
ブロックグラウンドゴルフ  
大会が三浦市で開催されました。  
選手一五〇名が揃い、  
鎌倉市からも三十名が参加  
し、大活躍しました。

女子の部では中央和光会  
の広田喜代子さんが、男子  
のスコアを上回る二十四で  
優勝、壁谷早苗さんが四位  
で奮闘。男子の部は高橋恒  
男さんが準優勝でした。

この大会に続き十八日は

の授与が行われ、第一部は終了しました。  
第一部は、一龍斎春水氏の講談で、美しい声と迫力の語り口に客席は引きつけられました。時折笑いも起り、祝典にふさわしい華やかな時が過ぎました。

最後に、青山総務部長の三本締めで幕を閉じ、「みらいふる鎌倉」は新生の第一歩を踏み出しました。

競技は途中三十分の休憩を入れてA・B班に分かれ二ラウンドずつ行いました。

谷早苗さん八十四歳、立派なものです。

男子の部は残念ながら六位までは栄区の皆さん。これは今回スコア付けを栄区方式にしたため、慣れない記録の仕事を鎌倉の優秀選手十二名（女子二名）にお願いし、試合に集中できなかつたためです。栄区がカード方式を採用していなかつたため譲歩した結果でし

# 2つのグラウンドゴルフ大会





大会の成功を祝い、がっちり握手する栄区老連高山会長(右)と鎌倉市老連太久保会長(左)

元気のススメ

元気のススメ

元気のススメ

## ケーブルテレビ番組の企画部会の発足



「みらいふる鎌倉」……生き生きと活動し、明るい未来の光が降り注ぐ老人クラブ……。(都筑 健一)

地域に根ざした高齢者がその経験と職能を結集し、JCN鎌倉の協力を得て行動力に弾みをつけようというもの。高齢化が進む会員の減少に歯止めをかけ、さらには団塊の世代の異なった視点や意見など、清新な気を吸収して「鎌倉元気のススメ」を行動に移

二〇〇七年を変革の年として「変わらなくちゃ老人クラブ」をテーマとして老人クラブのイメージを一新しようと番組企画部会が発足しました。

例の寿講座がレイウエルで開催され、延べ一、三四八人が梅雨空のもと熱心に聴講された。

昨年「川端康成の作品と生きさま」で好評を得た尾島政雄氏が、「小島元市長が良寛会の会長でもあったし」と、「良寛さんと一茶の生きさま」を熱演。一人は偶々同郷の人、この二人を並べて語るのは恐らく私がはじめてとこれは講演後の話だったが、この对比はユニークで大いに意味があったのだ。

良寛については、われわ

れは多少知っている。彼は生涯寺を持たず清貧の生涯を送り、七十歳にして貞心尼との心温まる交流もあってほつとさせられる。しか

## 第43回老人大学寿講座開催



### 「良寛さんと一茶の生きさま」を中心に

尾島氏は最後四十分で良寛の生活を下敷にして、両極端の一方の一茶の熾烈な家族関係を語る。俳諧の師匠として各地を廻るかたわら、継母と異母弟相手に長びく財産分配闘争、五十二歳から二回の結婚・死別・離縁。三人の子の死去、六十二歳にして子づれの三十歳下の女性を自ら探し出し結婚、火事で家屋消失、そして彼の死後に生まれた娘やたのみが成人した。

いや、一茶の万人に

名句を口ずさむことはできるが、彼の人生を全く知らないので、もっと詳しく知りたくなった。幸い我が家に途中までしか読まなかつた田辺聖子の「ひねくれ一茶」がある。すぐさま読み始めただちに読了、田辺は短詩文芸にも強い人で、この本は第二十七回吉川英次文学賞を受賞している。

一茶の万句を絶妙の場所に散りばめ、計算高く我執強く引き出しの闘争心を誇示して引かない一茶を、そして酷薄な世の中を渡り歩いてきた一茶の地金を濃密な存在感をもって見事に描ききっている。彼女の代表作たる作品で一茶が十分わかつた感じである。

二日目は昨年急病で中止になつた久能靖氏の「年金と皇室のお話」、この時期年金騒動でわれわれ相当

か

た

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ

だ



五日午前七時、駿河銀行前より出発。浜名湖SAから多賀SA、山陽道→明石大橋→淡路から徳島県へ入り阿波おどり会館へ。同会館で阿波おどり実演を観賞する。踊る阿波の見聞に有名なユーモラスで楽しい踊りが、浴衣の裳裾を翻してステージいっぱいに風に吹かれるように艶やかに繰り広げられます。鳥追い笠が揺れ、白い顔かほの見えてなまめかしさに誘われる。佳境に入るのは、踊る

人。同じ阿波なり踊りにや損ソノ、例の余りにも有名なユーモラスで楽しい踊りが、浴衣の裳裾を翻してステージいっぱいに風に吹かれるように艶やかに繰り広げられます。鳥追い笠が揺れ、白い顔かほの見えてなまめかしさに誘われる。



市老連・秋の研修旅行 9月5日~7日  
49名参加・バス1台

### 徳島阿波おどり会館と祖谷かずら橋、金比羅宮、四国靈場・善通寺への旅

リーダーから声がかかりました。「皆様もどうぞ、中へお入り下さい」すぐに手を上げて大村元市議会議長が身ぶり、手ぶりよろしくとけこみました。昂(すばる)宿よしの

泊。宴会では誘われるままにカラオケを一席、「これが大いにうけて柄にもなくさらにはひと声、高らかに歌いあげて割れるように拍手を浴びて幕。翌六日大歩危(ほけ)へ。人家まばらな田舎道路を祖谷(いや)のかずら橋へ疾駆する。片側は山が迫り、一方は目もくらむ断崖のはるか下を波濤(はと)が岩を喰む。広場へ着き、かずら橋へ歩く。つまり橋のはるか下を岩が突出しました。冷汗三斗の思いで渡り切った。ヤレヤレ。

夢平では名物のさぬきうどんの昼食で過(ご)し、金比羅宮へ…。本宮までは二五

メートルの登り。炎天下に杖と陣笠を借りて一、三六八段へ挑む。足に自信がない人は中段まではカゴに揺られて横に上がるが頂上まではカゴは行かないよ

うである。ガイドが適宜休憩をはさんで故事来歴を語る。二十七名が完登、最高齢者九十四歳の由。祭神は大国主命といわれる。旧國弊中社。境内にはカンピー

トが飾られていた。一息入ってから下りるが、汗が絞るようであった。琴平温泉は「桜の抄」へ泊まる。

高齢者のお誕生会で、われの手料理を食べていたお手造りですか? 素晴らしいわ、とっても美味しい」と喜ばれ、涙がこみ上がりくるほど嬉しかったことがあります。

来年は八十歳になるので、いつまで料理を続けるか自信はないが、健康のためにも塩分は少な目に、味付けも薄めにするよ。心がけましょうという先生の教えを守って、好きな料理を少しでも長く続けていきたいと願っています。

今年は「もつたいない市」に参加。

青山総務部長が大きな声で威勢よくお客様を呼びこ

み、品物も貰いやすく並べて、とても楽しいひとときを過ごしました。

「もつたいない市」に湘南の老人クラブとして初めて鎌倉老人クラブ女性・社会活動部が参加しました。

台風と豪雨に襲われてい

た南関東のニュースが間

なく入ってきていたが、幸

い良い天気に恵まれていた

日程であった。

(都筑 健一)

私も定年を迎えた時、市の生涯学習教育の講座から最後の七日は善通寺(八十八ヶ所靈場、弘法大師誕生日)。かつて第十一師団、乃木大将の師団司令部設置の旧跡である。感慨を新たにして黙祷を捧げる。若いガイドはよく勉強していた

女性・社会活動部 伊藤 武子

多賀SA、浜名湖を経て鎌倉へ。

私もテレビや雑誌で珍持参する熱心な人もいる。

二階堂白寿会 安川 敏

「料理教室」を選択した。蓼沼先生のきめ細かい指導のもと、同じ釜の飯を食

食のお手伝いや社会科の授業を通じ、男女の境界が次々とはずされ、興味があればどちらの分野にも立ち入れるようになった。料理もその一つで、コックさんに魅力を感じ、退職したら料理でも習おうかという男性が増えてきたのも不思議ではない。

私も定年を迎えた時、市の生涯学習教育の講座から

「男子厨房に入る」とな

り「料理教室」を選択した。

蓼沼先生のきめ細かい指

導のもと、同じ釜の飯を食

べる仲間と十年たち、受講回数も百回をこえた。この間、奥さんが亡くなったり、入院されたりした人は、「料

理を習つてよかったです」とつくり思つ。おかげで私の株もぐんとあがつたよ」と感謝している。家ではまだだ奥さんまかせの人が多いが、なかにはピカピカに研いだ包丁をさりげなく巻いて持参する熱心な人もいる。

家族から「これもお父さんのお得意の料理の一つだ

ったね」といわれるようにな

る。二十七名が完登、最高齢者九十四歳の由。祭神は

大国主命といわれる。旧國弊中社。境内にはカンピー

トが飾られていた。一息入ってから下りるが、汗が絞

るようであった。琴平温泉は「桜の抄」へ泊まる。

高齢者のお誕生会で、われ

の手料理を食べていた

お手造りですか? 素晴らしいわ、とっても美味しい

と喜ばれ、涙がこみ上

げてくるほど嬉しかったこ

とがある。

なれたらと思う。

料理の醍醐味は、食べた

人から「美味しい」という

言葉を聞いた時だ。かつて

高齢者のお誕生会で、われ

の手料理を食べていた

お手造りですか? 素晴

らしいわ、とっても美味しい

と喜ばれ、涙がこみ上

げてくるほど嬉しかったこ

とがある。

高いところへ登る

と喜ばれ、涙



古く関東一帯の人々は、一年の農作業が一段落した頃、大山へ詣でて健康を祈り、江ノ島弁財天で福を得、衆生済度と五穀豊穣を願つて、鎌倉光明寺のお十夜念佛法要のお籠りをして一年の締めくくりをしたといふ。

光明寺は寛元元年(1243)四代執権北条経時が然阿良忠を迎えて開いた浄土宗の大本山で、円覚・建長同様立派な山門を持つ海辺の開放感のある寺として親しまれている。

幼時から寺の近隣に住みこの縁日の賑わいの前後から、秋の冷たい気配を感じ、酸っぱい青いみかんの出始めの頃と思いこんでいた。六十年住んだ材木座から離れて十数年になるが、お十夜の今昔について初めて取材しながら書いてみた。

そもそもお十夜とは净土宗の行事で、正式には「十夜別時念佛会」という念佛法要のことである。当初は平安時代に唐から比叡山に伝わり、室

享年間(1429~1440)に平賀國が真如堂(ここも)にて、十日間念佛を勤めたことからはじまつた。しかし、貞國の因縁とは直接関係なくそれから約六十年後、明応四年(1495)光明寺中興の祖といわれた高徳の八代目観音祐宗上



いわれと今昔

人が後土御門天皇の帰依を受け、勅願寺として十夜法要を永世光明寺で行うことを勅許された。「善を修すること十日十夜なれば諸仏国土において善をなすこと千歳に勝る」といふ。そして法然は、「時々無量寿經典によつたものだ。そして法然は、時々日頃の念佛とは少々趣向を変えた〈別時の念佛〉を試み、新たな刺激や感激を得て、また日々の念佛にいそしみましょうと、十夜法要の大切さを説いている。

五十七世義詮が十夜法要の中興の嘉運を開いた

ところから、法要の遂行には盛衰があったのだろう。現在光明寺は十月十一日から十五日まで縮めて行われている。

こうして光明寺は全国最盛時には「見せ物」は総門から山門の間に多い時は四軒入った。サークスは蓮乗院側で、空中ぶらんこと綱渡り曲芸だった。呼び歌講中等・稚児が日中法要ら法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

お十夜の名物はお籠りの風景だった。全国から住職と一緒に僧徒がバスで来た頃もあり、近隣三浦・小田原・山北辺りの信徒・諸講師の人たちが、法要・説教が終わりお寺方が退堂すると、宿所となる開山堂に集結する。持参した重箱を広げ般若湯を傾ける。知らぬ者同士、久々の逢瀬の者がお菜や盃を分けあい談笑、ご自慢の詠歌「ーラスが始まり踊りが伴つて、それがさらに高調してくると芸達者者が赤や黄の襷をかけてしゃしり出て、声自慢の歌い手の唄謡・流行歌に手拍子ようしく、乱舞に近い踊



日中法要行列の全景

お十夜は僧俗一体の行事という指摘がある。詠唱講の他に各種の講があつて、先の善の綱も「善綱講」が毎年寄進し、「鉢講」もその一つである。五七世義詮の一つである。五七世義詮が、念佛の伴奏に双盤といふ金属製の打楽器が使われる。光明寺ではさらに雲版(引声阿弥陀経)を広めた(青銅または鉄の樂器)と

内に導かれ、さらに外陣内陣を経て堂奥正面の本尊阿弥陀の手に届き五条の糸(白・黒・赤・紫)がゆわえられている。これは「善の綱(紐)」として、これにつかまれば阿弥陀の手にひかれて極楽往生できるという。この五色の糸にかかる信仰が、さらにその光にすがるということから、五道(地獄道・餓鬼道・畜生道・人間道・天道)の世界、つまり現実世界の迷いの境涯に苦しむわれわれを救つて下さるということであり、十夜のようない縁日に結縁のために参詣の人々に引かせるようになつた。

お十夜は僧俗一体の行事が厳かな中にひときわ色彩豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。なかでも十三、十四日に行われる二十人の稚児による法要に先だつ礼讚舞が厳かな中にひときわ色彩豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

お十夜は僧俗一体の行事が厳かな中にひときわ色彩豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。なかでも十三、十四日に行われる二十人の稚児による法要に先だつ礼讚舞が厳かな中にひときわ色彩豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

次に縁日の賑わいに移るが最盛時には「見せ物」は総門から山門の間に多い時は四軒入つた。サークスは蓮乗院側で、空中ぶらんこと綱渡り曲芸だった。呼び歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

お十夜の名物はお籠りの風景だった。全国から住職と一緒に僧徒がバスで来た頃もあり、近隣三浦・小田原・山北辺りの信徒・諸講師の人たちが、法要・説教が終わりお寺方が退堂すると、宿所となる開山堂に集結する。持参した重箱を広げ般若湯を傾ける。知らぬ者同士、久々の逢瀬の者がお菜や盃を分けあい談笑、ご自慢の詠歌「ーラスが始まると、踊りが伴つて、それがさらに高調してくると芸達者者が赤や黄の襷をかけてしゃしり出て、声自慢の歌い手の唄謡・流行歌に手拍子ようしく、乱舞に近い踊

もうもろの愚者も月さす十夜かな(一茶)

光明寺関八州の十夜なり(詠風柳多留)

て、インチキぶりに腹を立てて、インチキぶりに腹を立てる。

露店は九品寺から本堂まで両側に盛時は二百軒以上並び、バスは九品寺で折返した。いつ頃までだったか裸電球とアセチレンガスの燈火が懐かしい。この二三日前からこわいお兄さんたちが来て出店者と地割りをするほど名高く、これも双盤念仏講中によって期間中毎日三回の法要の合い間山門の下で奉納される。

さて、十二日宵から参列者たちが大殿に集まり、開白法要から三日間諸行事が僧俗一体となつて営まれる。なかでも十三、十四日に行われる二十人の稚児による法要に先だつ礼讚舞が严かな中にひときわ色彩豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

(K)

境内の参詣者と近所住民の耳に流れる双盤念仏の曲調は引声念仏と称されて同時に、「双盤十夜」といわれるほど名高く、これも双盤念仏講中によつて期間中毎日三回の法要の合い間山門の下で奉納される。

境内の参詣者と近所住民の耳に流れる双盤念仏の曲調は引声念仏と称されて同時に、「双盤十夜」といわれるほど名高く、これも双



## 鎌倉の昔の小学校の思い出

入ってきた医者の息子のHは、「実際嬉しいね、これで気がひきしまった」と言った。その後は一人ひとりのビンタはしばしば実行されたが、父兄から一人も苦情はなかったようだ。人間関係が得意いたか



## 記憶の中の小学生時代

鎌倉市教育委員会 教育長

熊代 徳彦

昭和二十年四月一日。割烹着姿の母親に手を引かれて、私は入学式に臨みました。本土空襲が激しさを増していく時もあり、正装で式に出席している人はいませんでした。私は分厚い防空頭巾を被り、古びた紺の着物、そしてモンペ姿に草履を履いて、他の友だちと共に校庭に並びました。ほとんどの保護者は、子どもたちと同じように防空頭巾を一緒に頭に着けていました。校長先生の話が終わると、それぞれの地区ごとに分かれ、担任になる先生から、親子で明日から始まる授業についての説明を

▼同期の別クラスでも、M先生の激しいビンタは有名だったようだ。

▼Y先生は正規の海の授業の他に、ふらりと海辺に現れ、私の家に着衣を置いて、近くの誰かれを誘つて泳ぎふさせてくれた。

▼卒業の時全員にY先生は、自分のことを書かせたが、十一年前の大同窓会に先生は全員の作文を持参、後にコピーし

て配つたが、貴重な文集なので熊代教育長にお見せした。

て配つたが、貴重な文集なので熊代教育長にお見せした。

規の教員になつたY先生(前述先生)は(23年)、初担任のクラスで女生徒の自宅に寄つた。

「三年の時先生は、私の家の

風呂に入り私も入つた」と話

してくれたが、友だちと泳い

だ後的情景だろう。

▼二・三年の時は稻村小が発

足するまで学童過剰で二部授

業だった。

Y先生は、私の家の

風呂に入り私も入つた」と話

してくれたが、友だちと泳い

だ後的情景だろう。

▼毎月八日を「大詔奉戴日」

(開戦十六・十二・八)といい、

高学年は校庭で点呼、軍歌を

歌い行進。「歩調どれ!」との

号令で顔を向ける。そのあ

け、台上の校長に右向け右

左向け左向け右



## 今号の やまももさん

大船田園柏寿会  
山中伝三郎さん(100歳)

條義時が靈夢に感じ入つて大倉の地  
えらんで薬師堂を建立した。  
鷲峰山真言院覺園寺と呼ばれるよ  
になつたのは、永仁四年（一一九六年）  
開基は時の執権北條貞時で智海慧心

黒地蔵尊（国重文）は別名「火焚地蔵」と呼ばれ、みずから地獄の獄に代わつて火を焚き罪人の苦をやわげたために焼されて、いくら彩色をしてもすぐに黒くなつてしまつという覚園寺は建保六年（一二一八年）

道を十分ほど行くと覚園寺の山門が  
えてくる。八月十日、今日は年に一  
の黒地蔵尊のご縁日で開かれた寺領  
払暁から近隣の人々がひきもきらす  
燈明と香を捧げて参詣する。



一黑地藏一

開山とし、その後北條氏、後醍醐天皇、足利氏と代々の為政者に保護される。

原稿募集・投稿規定

編集後記

文和三年（一一五四年）足利尊氏の援助で佛殿が復興され、今も天井には尊氏自署の梁牌銘が読みとれる。

国重文の必見の佛像で堂内には十一神将が三尊を守護している。

和尚の墓塔と、開山心慧、二代目大燈、共に（国重文）の四メートルにも及ぶ二基の大宝篋印塔が苔むしてどつしり

と鎌倉でいる。寺領は国の史跡で自由に入れないがそれだけに自然の深いたたずまいや、特に晚秋の景観は鎌倉

紅葉の色彩のハーモニーの美しさに魅了される。

厳な雰囲気を彷彿とさせる稀有なる名刹であり、いざ鎌倉の時の城塞寺院でもあつたのだ。

ひそやかな墓地は又二一林林林風の墓が目についたが「鎌倉のおばさん」（村松友規作）も眠つておられるのかしら、ふと感づ。

(淨明寺壽會 山本 照子)

七年間大道具を担当した。その後、呂業を始め、友人らとともに瑞泉寺の堂宇を建立。そして、建築業三十余年の暮れ

の善行が認められ、賀陽宮家（旧皇族）  
から剣を授かり、「賞賀を賜る」。

のが好きで、よく一人旅に出かけては、その日のうちにがらりと帰ってくる。同様にハミツのまさの

腕前もなかなかのもので撮影した本数は実に七十本超。なにより家族みんなで見る事を楽しみにしながら、撮影に没頭していました。取材当日、今までの作品を見せていただいたが、山中さんが賀間すまが

会員の皆様からのご投稿をお願いいたします。次号の題材は自由としますので、書き残したいことなどを六〇〇字前後でまとめてください。

◎送り先は鎌倉市役所高齢者福祉課内老人クラブ連合会事務局（鎌倉市御成町18-10）まで。  
○原稿締め切り 平成20年2月末  
○紙面割りの都合で、原稿の採用、  
内容の一部修正等についてはご一  
任願います。原稿等は返却いたし  
ません。

光明寺お十夜のいわれがあまり知られていないようなので、その由来も入れてみました。

私たちの世代の小学校の思い出は戦時色から離れては語れません。熊代教育長はわが子の世代をみてくださった方です。今回はご自身の小学校と教師時代の思い出をお寄せくださいました。ありがとうございました。また厚くお礼申し上げます。

大津先生の半生の画業につきお話をうかがい、家族へのまなざしの深さに改めて感銘しました。今後も先生の画業への関心が益々高まりそうです。

◆表紙の写真 ひがし み のぶ ほんがくじ  
東身征 本覚寺

鎌倉郵便局裏の本覚寺の境内を市民は当然のように駅への近道として利用している。当初この地は裏鬼門にあたると頼朝が幕府の守り神として夷神を祀った夷堂（吾妻鏡）を建てた。日蓮は佐渡から帰って（1274）一時ここに留まり、のち身延に移った。室町時代になって日蓮の流れを継ぐ一乗日出が天台宗の夷堂に入り、日蓮宗に改め布教を始める。ところが他の宗派の反対にあい、鎌倉公方足利持氏に捕らえられ処刑されそうになったが、夷神のお告げによって許され、持氏は逆に寺を建て寄進し、永享八年（1436）寺の開山が許された。日出が修行時日蓮の教えを受けたいなら、伊豆の宇佐美の鏡澄丸という子に会えと夢のお告げがあり、その子を弟子とする。のちの二代目住職となる日朝上人である。彼は間もなく身延山の貢主にもなり、日蓮の遺骨を本覚寺に分骨し、「東身延」と呼んだ。また日朝が眼病を患うが法華経の功德で快癒、「眼病救済の日朝」の靈験あらたかな寺とされている。墓所には刀工正宗の墓と石塔があり、正月は商売繁昌を祈願して福娘がお神酒をふるまい、桜と百日紅が見事な花の寺でもある。（K）

◆スポンサー各位へ御礼◆

「やまもも」発行に際して協賛いただきました各位に厚く御礼申上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。みらいふる鎌倉